

あの日、ふたりが出会ったのは、  
世界をつなぐこのまちの物語だった——



*La ville du ciel*



# 飛行場のまち

所沢からはじまる物語



「フランス航空教育団と日仏交流」次の100年事業

製作・著作 所沢市

後援 在日フランス大使館／埼玉県

協力 所沢航空発祥記念館

# 「航空発祥の地」

## 所沢の歴史を

## 描いたファンタジー

所沢に住む少年・翔太。

翔太はある日、友人の純が大切にしている

模型飛行機を探しているうちに

不思議なフランス人将校を見かける。

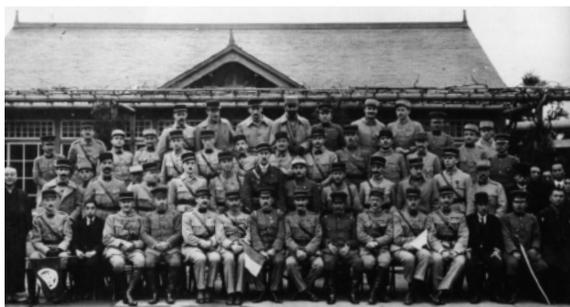
翔太はフランス人将校の姿を追いかけるが、

その過程で様々な人と出会い所沢飛行場や

フランス航空教育団といった所沢の歴史に触れていく。



### 航空で結ばれた日本とフランスの絆



### 所沢飛行場

所沢は日本で初めて飛行場が開設されたことから、「航空発祥の地」と呼ばれています。

1903年にライト兄弟が初の動力飛行に成功して以降、世界中で飛行機の研究が盛んとなりました。日本も1909年に臨時軍用気球研究会を設立し、航空研究を進める為の試験場として建設されたのが所沢飛行場です。1911年4月1日に完成。同月5日は徳川好敏大尉がフランス製のアンリ・ファルマン機で初飛行を行い、その後30年以上にわたり日本の航空技術発展の舞台となっていきました。

### フランス航空教育団

第一次世界大戦の経験から更なる航空技術の発展が必要と考えた日本政府は、当時世界でも優れた航空技術を保有しているフランスに教育団の派遣を依頼しました。

そして1919年1月、フォール大佐を団長とする60数名のフランス航空教育団が来日します。教育団は所沢（埼玉）、下志津（千葉）、浜名湖（静岡）、三方ヶ原（静岡）、東京砲兵工廠（東京）、熱田（愛知）、各務ヶ原（岐阜）の国内7カ所で訓練を実施し、その後の日本の航空の基礎を築きました。

### 作品の舞台

#### 所沢航空記念公園



所沢飛行場は太平洋戦争後に米軍基地として接収されましたが、多くの人々の想いが通じ、その一部が1971年に返還されました。そして、その跡地に約50haという広大な面積の公園が造られました。園内には飛行機の仕組みが学べる所沢航空発祥記念館をはじめ、人工芝運動場、野外ステージ、野球場、茶室などがあります。

#### フォール大佐像



フランス航空教育団団長のフォール大佐の偉業を称えるため所沢陸軍飛行学校が校内に銅像を建立したのは1928年のことでした。残念ながらオリジナルの銅像は太平洋戦争中の金属供出で台座を残して失われてしまいましたが、1982年に多くの航空関係者を中心とした有志の尽力により再製作されました。

#### 所沢航空発祥記念館



公園のシンボルとして1993年に開館。空港を模した館内には、公式飛行に成功した初めての国産軍用機である会式一号機（レプリカ）をはじめ、様々な飛行機やヘリコプターの実機が展示されています。また2Fメモリアルギャラリーでは1911年開設当時の所沢飛行場の歴史を学ぶことができます。

#### 木村・徳田 両中尉殉職記念碑



1913年、木村鈴四郎中尉と徳田金一中尉はブレリオ機で青山練兵場から所沢飛行場に戻る途中、突風による左の翼の破壊のため墜落し、日本初の航空殉職者となりました。国民はその死を悲しみ、新聞などが募った義援金により墜落地点に記念塔を建てました。その後、1980年に公園内の現在の場所に移設されました。

この作品をご覧になりたい方は、所沢市商業観光課（04-2998-9155）まで

